紀　　要

第 7 号

目　　次

二つの前方後円墳 ……(細川修平)… 1
滋賀県出土の埴輪資料集(その4) ……(稲垣正宏)… 27
近江へのアプローチ・その1 …… 43
　1．高島郡の地形と条里 ……(神保忠宏)… 44
　2．高島郡における遺跡の動態　―今津町周辺をフィールドに― …(畑中英二)… 50
　3．高島郡の古代寺院 ……(重岡　卓)… 57
　4．高島郡の鉄生産とその周辺 ……(大道和人)… 61
　5．高島郡の古代北陸道 ……(内田保之)… 66
　6．高島郡にみる古代国家 ……(細川修平)… 71
南北方位建物についての研究ノート ……(田井中洋介)… 77
近江京域論の再検討・予察―7世紀における近江南部地域の諸相― …(相原嘉之)… 83
滋賀県における古代の土器様相・その1
　―湖南地域における無台杯身・かえり付き蓋の変遷を中心に― ……(畑中英二)…104
江州農具雑想ノート ……(上垣幸徳)…126
滋賀県甲賀郡土山町における蔵王産花崗岩製中世石造美術の分布
　―土山町石造美術石材分布調査概要― ……(兼康保明)…131
滋賀県内出土漆製品集成―後編― ……(中川正人)…145

1994．3

財団法人滋賀県文化財保護協会

滋賀県内出土漆製品集成－後編－

中　川　正　人

1．県内出土漆製品集成の後編について

滋賀県において出土した漆塗り木製品の集成をはかる目的で、前編では古代編として縄文時代から古墳時代にいたる数々の漆工品を収集し、その形態、技法、材料について観察した。今回の集成では、奈良時代から近世にいたる遺跡からの出土漆製品についてまとめる。とくに全国的にも増加する傾向にある中世ならびに近世の集落遺跡や城下町遺跡の発掘調査では、多様な生活用具の中に混じって漆器が出土することも多く、食生活や漆器の生産や消費にあたっての諸問題を提示している。

2．漆器研究の現状

漆工芸品の研究は、奈良時代から中近世の寺院の伝世資料に代表されるように、その美術史的側面からの調査研究は古くから行われている。これに加え、前述したように、遺跡から出土する漆器資料は伝世資料になかった新たな漆工芸の技法や材料についての情報を提供しつつある。その手法はエックス線による透過写真撮影による構造調査、分析機器による下地や顔料の材質同定、漆膜断面の顕微鏡観察、木地の樹種同定、さらには漆そのものの科学的研究にいたるまで幅広い。

また中近世漆器については、民俗資料と文献資料調査を加味し、それぞれの地域や時代において木地や漆など素材の供給から加工製造、流通、消費にいたる多くの研究課題が存在している。

3．漆製品の調査方法について

県内出土の奈良時代以降の漆器は、今回の集成にあるように、200点近くにのぼっている。現在整理中のものも含めるとさらに増えると思われる。本集成のうちのほとんどを挽き物である漆椀が占めるが、漆製品の調査における観察記録は次のような項目が必要となってくる。

出土遺跡についての記述（所在、時代、性格、成因、調査年など）、漆器の種類や形態（器種）、漆器の技法と材料（木取り、下地、漆塗膜、加飾法など）、法量（口径、器高、高台径など）、材質調査（木地、使用顔料など）、さらに伴出物や埋蔵環境、保存状態（現状）の観察など項目は多岐にわたっている。

資料の分類方法には地域や遺跡による分類、形態もしくは器種による分類、時代による分類などが考えられるが、本稿では、まず主な資料を遺跡ごとに観察しその概要を記述する。次に分析結果を考慮しながら技法についての特徴や出土遺跡についての考察をおこない、漆器研究における問題点について述べる。

漆製品の観察および調査法として、肉眼および実体顕微鏡による技法と加飾法の観察、木胎の樹種同定（註－１）、ケイ光Ｘ線分析による赤色顔料の同定をできる限り実施した（註－２）。

本稿の一覧表は、遺跡名をはじめ出土地名、漆製品の種類、数量、文献を集計した滋賀県出土漆製品一覧［後編］（表－１）を基本とし、漆椀の法量を計測してまとめた漆椀法量計測表（表－２）、さらに赤色顔料についてのケイ光Ｘ線分析装置による分析結果を赤色顔料分析調査表（表－３）で構成されている。なお、遺跡や遺構、出土年代については報告書等の文献を、また、最近の自然科学的研究を交え漆工芸の調査研究については、それぞれ文末に参考資料としてまとめた。

４．漆製品の材質と技法の観察

資料－６　大津市浮御堂遺跡出土漆蓋

横木取りのトチ材をぶ厚く挽き、内外を黒漆で仕上げている。つまみ内に弁柄漆で「一」の字を書いている。

資料－９　野畑遺跡出土黒漆塗り椀

木地にサビ下地を施し、椀外面を赤、内面は黒漆塗りであるが表面の漆膜ならびに漆絵は使用のさい磨滅したようで木地が露呈している。

資料－10、11　南滋賀遺跡出土漆器

押型文漆椀断片⑽は、全体を黒漆塗りで朱漆を使用した押型文で加飾されている。押型の材料はどのようなものであったかは後に考察のところで述べる。漆塗り高杯⑾については木胎は腐朽し収縮しているものの、黒漆の厚い皮膜でおおわれている。器種は不明である。

資料－13～17　特別史跡彦根城跡出土漆器

彦根城跡は国の特別史跡に指定されており、地区により城下町遺跡も含まれる。同遺跡出土の漆器はこれまで十点以上にのぼる。櫛断片⒀とみられるものは黒漆の塗膜が良く残っている。漆椀断片⒁は、紅葉文の金蒔絵が施されている。ケイ光Ｘ線分析により高い濃度の金が検出されている。また、黒漆塗り箸⒂も出土しており当時の武家での食事の道具として位置づけられる。さらに黒漆塗下駄⒃と赤漆塗下駄⒄がそれぞれ片方ずつ出土している。漆塗膜はわずかしか遺存していない。寸法からみて女ものか子供用であろう。

資料－19　松原内湖遺跡巻胎漆器断片

「巻胎漆器」とは、木の円形板を軸とし桧などの薄板を幾重にも巻いて胎として器形を整え、布着せを施し漆を塗って仕上げたものである。この漆工技法の利点としては、器胎を形作るのに轆轤で木地を挽くことなく、比較的簡単に、轆轤を用いて挽いたのと同様な形状に仕上げることが可能となる。しかも、轆轤挽きによる器物の弱点である素地の割れ、歪みを防ぐことができる。

松原内湖遺跡から出土した巻胎漆器は、中央の軸となる円盤状の断片とその周囲を取り巻くコイル状の断片からなっている。漆の塗膜は部分的に欠落し下地および素地の一部が露出している。表面は黒漆塗りで加飾は見られない。残念ながら器形全体の復元は困難であるが蓋である可能性

表-1　滋賀県出土漆製品一覧［後編］

番号	漆器の種類	遺跡名	カナ	所在地	点数	遺構	時代	文献
1	漆椀	穴太遺跡	ｱﾉｳ	大津市穴太	2	***	中世	
2	漆椀	石山貝塚	ｲｼﾔﾏｶｲﾂﾞｶ	大津市石山寺三丁目	2	***	中世	
3	漆椀断片	浮御堂遺跡	ｳｷﾐﾄﾞｳ	大津市本堅田一丁目	1	包含層	近世	
4	漆椀断片	〃	〃	〃	1	包含層	近世	
5	漆椀断片	〃	〃	〃	1	包含層	近世	
6	漆椀蓋	〃	〃	〃	1	包含層	近世	
7	漆椀	大津城跡	ｵｵﾂｼﾞｮｳｱﾄ	大津市浜大津	7	***	***	
8	漆椀	園城寺遺跡	ｵﾝｼﾞｮｳｼﾞ	大津市園城寺町	1	***	***	
9	黒漆塗り椀	野畑遺跡	ﾉﾊﾞﾀｹ	瀬田三丁目・野郷原二丁目	1	井戸	平安	9
10	花角文型押漆椀	南滋賀	ﾐﾅﾐｼｶﾞ	大津市南滋賀	1	***	***	33
11	黒漆塗り高杯断片	〃	〃	〃	1	包含層	平安	33
12	漆椀	上沢尻	ｶﾐｻﾜｼﾘ	彦根市野瀬町	1	***	***	
13	椀断片	特別史跡彦根城跡	ﾋｺﾈｼﾞｮｳ	彦根市金亀町	1	***	江戸	
14	漆椀断片	〃	〃	〃	1	***	江戸	
15	黒漆塗り箸	〃	〃	〃	1	***	江戸	
16	黒漆塗り下駄	〃	〃	〃	1	井戸	江戸	
17	赤漆塗り下駄	〃	〃	〃	1	井戸	江戸	
18	漆椀	蛭目遺跡	ﾋﾙﾒ	彦根市日夏町・清崎町	3	***	***	
19	巻胎漆器断片	松原内湖遺跡	ﾏﾂﾊﾞﾗﾅｲｺ	彦根市松原町	1	包含層	奈良	30
20	漆皿	妙楽寺遺跡	ﾐｮｳﾗｸｼﾞ	彦根市日夏町	1	溝	室町後	19
21	漆椀	〃	〃	〃	1	溝	室町後	19
22	漆椀	〃	〃	〃	1	集積遺構	室町後	19
23	漆椀	〃	〃	〃	1	溝	室町後	19
24	漆椀	〃	〃	〃	1	溝	室町後	19
25	漆椀	〃	〃	〃	1	土壙	室町後	19
26	漆椀	〃	〃	〃	1	包含層	中世	19
27	漆椀	〃	〃	〃	1	溝	平安	26
28	漆椀	〃	〃	〃	1	溝	平安	26
29	漆椀	〃	〃	〃	1	溝	室町中	26
30	漆椀	〃	〃	〃	1	溝	室町後	26
31	漆椀	〃	〃	〃	1	溝	室町後	26
32	漆椀	〃	〃	〃	1	溝	室町中	26
33	漆椀	〃	〃	〃	1	溝	室町中	26
34	漆椀	〃	〃	〃	1	溝	室町中	26
35	漆椀	〃	〃	〃	1	溝	室町中	26
36	漆椀	〃	〃	〃	1	溝	室町中	26
37	漆椀	〃	〃	〃	1	溝	室町中	26
38	漆椀	〃	〃	〃	1	溝	室町中	26
39	漆皿	〃	〃	〃	1	溝	室町中	26
40	漆椀	〃	〃	〃	1	溝	室町後	26
41	漆椀	〃	〃	〃	1	包含層	室町末	26
42	漆椀	〃	〃	〃	1	溝	室町後	26
43	漆椀	〃	〃	〃	1	溝	室町後	26
44	漆椀	〃	〃	〃	1	溝	室町後	26
45	折敷断片	〃	〃	〃	1	溝	室町後	26
46	漆椀	〃	〃	〃	1	溝	室町	26
47	漆椀	〃	〃	〃	1	包含層	室町末	26
48	漆蓋	〃	〃	〃	1	包含層	室町後	26
49	漆椀断片	大東遺跡	ｵｵﾋｶﾞｼ	長浜市大東町	1	***	中世	29
50	漆椀	勝町遺跡	ｶﾂﾏﾁ	長浜市勝町	1	溝	***	1
51	漆椀	〃	〃	〃	1	溝	***	1
52	漆椀底部	〃	〃	〃	1	溝	***	1
53	漆椀底部	〃	〃	〃	1	溝	***	1
54	扇文漆椀	新庄馬場遺跡	ｼﾝｼﾞｮｳﾊﾞﾝﾊﾞ	長浜市新庄馬場町	1	遺構面	平安	15
55	漆椀	森遺跡	ﾓﾘ	長浜市森町	1	包含層	平安	11
56	型押漆椀	勧学院遺跡	ｶﾝｶﾞｸｲﾝ	近江八幡市馬淵町	1	井戸	***	
57	花文型押漆椀	金剛寺遺跡	ｺﾝｺﾞｳｼﾞ	近江八幡市金剛寺町	1	溝	室町	31
58	花文型押漆椀	〃	〃	〃	1	溝	室町	31
59	漆椀断片	高木遺跡	ﾀｶｷﾞ	近江八幡市西庄町	1	土壙	***	
60	漆椀断片	御館前遺跡	ﾐﾀﾁﾏｴ	近江八幡市千僧供町	1	溝	***	
61	漆椀断片	瓦屋寺カマエ遺跡	ｶﾜﾗｲｼﾞｶﾏｴ	八日市市建部瓦屋寺町	1	包含層	***	
62	漆椀	御倉遺跡	ﾐｸﾗ	草津市御倉町	1	包含層	***	18
63	漆椀	〃	〃	〃	1	包含層	***	22

番号	漆器の種類	遺跡名	カナ	所在地	点数	遺構	時代	文献
64	漆椀断片	御倉遺跡	ﾐｸﾗ	草津市御倉町	16	包含層	***	25
65	黒漆塗り鞍	志那湖底遺跡	ｼﾅｺﾃｲ	草津市志那中町	1	溝	***	14
66	漆椀	志那中遺跡	ｼﾅﾅｶ	草津市志那中町	1	井戸	鎌倉後	5
67	漆皿断片	〃	〃	〃	1	溝	室町	3
68	漆椀	南平遺跡	ﾅﾝﾍﾟｲ	草津市矢倉一丁目	1	井戸	***	
69	漆椀	〃	〃	〃	1	井戸	***	
70	漆椀	山田城遺跡	ﾔﾏﾀﾞｼﾞｮｳ	草津市南山田町	1	***	***	
71	蓮弁	川田遺跡	ｶﾜﾀ	守山市川田町	1	***	***	
72	建築部材	杉江遺跡	ｽｷﾞｴ	守山市杉江町	1	堀状遺構	室町	16
73	漆椀	山賀遺跡	ﾔﾏｶﾞ	守山市山賀町・杉江町	1	***	室町	20
74	漆皿	横江遺跡	ﾖｺｴ	守山市横江町	1	溝	***	27
75	漆絵皿	〃	〃	〃	1	溝	***	27
76	椀	〃	〃	〃	1	溝	***	27
77	漆椀	野尻遺跡	ﾉｼﾞﾘ	栗東町野尻	2	溝	***	
78	亀甲文漆椀	街道遺跡	ｶｲﾄﾞｳ	野洲町大篠原	1	包含層	室町	23
79	花文型押漆椀	〃	〃	〃	1	包含層	室町	23
80	花文漆皿	〃	〃	〃	1	包含層	室町	23
81	漆椀	小堤遺跡	ｺﾂﾂﾐ	野洲町小提	1	土壙	江戸	21
82	漆椀	〃	〃	〃	1	土壙	江戸	21
83	漆椀	三上遺跡	ﾐｶﾐ	野洲町三上	1	土壙	鎌倉	28
84	漆椀	〃	〃	〃	1	土壙	鎌倉	28
85	漆椀	〃	〃	〃	1	土壙	鎌倉	28
86	花押漆椀	十七遺跡	ｼﾞｭｳﾅﾅ	安土町下豊浦	1	***	室町	
87	大善銘漆椀	〃	〃	〃	1	井戸	室町	
88	漆椀	〃	〃	〃	1	井戸	室町	
89	漆椀	〃	〃	〃	1	井戸	室町	
90	漆椀断片	〃	〃	〃	1	井戸	室町	
91	漆椀断片	慈恩寺遺跡	ｼﾞｵﾝｼﾞ	安土町慈恩寺	1	土壙	室町後	6
92	橘文漆椀	〃	〃	〃	1	***	室町	6
93	漆皿	〃	〃	〃	1	***	鎌倉初	6
94	漆椀	〃	〃	〃	1	***	室町	6
95	漆椀	〃	〃	〃	1	***	室町	6
96	漆皿	〃	〃	〃	1	***	室町	6
97	漆椀断片	〃	〃	〃	1	***	室町	6
98	漆椀	〃	〃	〃	1	***	室町	6
99	漆椀	麻生遺跡	ｱｿｳ	蒲生町岡本・上麻生・下麻生	1	***	***	
100	漆椀断片	小御門遺跡	ｺﾐｶﾄﾞ	日野町小御門	1	***	***	
101	用途不明品	〃	〃	〃	2	墓跡	***	35
102	橘文黒漆椀	宮ノ前遺跡	ﾐﾔﾉﾏｴ	日野町石原	1	包含層	鎌倉	24
103	漆椀	竜田遺跡	ﾀﾂﾀ	五個荘町竜田	1	***	鎌倉	
104	黒漆塗り鞍	斗西	ﾄﾉﾆｼ	能登川町斗西	1	溝	奈良	34
105	漆箔透彫り光背	今安楽寺遺跡	ｲﾏｱﾝﾗｸｼﾞ	能登川町今	1	溝	平安	13
106	花文黒漆塗り椀	大徳寺遺跡	ﾀﾞｲﾄｸｼﾞ	能登川町能登川・伊庭	1	土壙	中世	12
107	漆椀蓋	延勝寺湖底遺跡	ｴﾝｼｮｳｼﾞ	湖北町今西・延勝寺・海老江	1	包含層	江戸	10
108	漆椀	〃	〃	〃	1	包含層	江戸	10
109	漆椀	〃	〃	〃	1	包含層	江戸	10
110	漆椀	〃	〃	〃	1	包含層	江戸	10
111	朱漆塗り折敷	〃	〃	〃	1	包含層	江戸	10
112	漆椀	〃	〃	〃	1	包含層	江戸	10
113	漆塗り折敷	〃	〃	〃	1	包含層	江戸	10
114	漆椀蓋	〃	〃	〃	1	包含層	江戸	10
115	漆椀	〃	〃	〃	1	包含層	江戸	10
116	漆椀	〃	〃	〃	1	包含層	江戸	10
117	漆皿	〃	〃	〃	1	包含層	江戸	10
118	漆鉢	〃	〃	〃	1	包含層	江戸	10
119	漆椀	〃	〃	〃	1	包含層	江戸	10
120	漆椀	〃	〃	〃	1	包含層	江戸	10
121	漆椀	尾上遺跡	ｵﾉｴ	湖北町尾上	1	包含層	江戸	10
122	漆椀	〃	〃	〃	1	包含層	江戸	10
123	漆椀蓋	〃	〃	〃	1	包含層	江戸	10
124	漆塗り折敷板	〃	〃	〃	1	包含層	江戸	10
125	漆椀	〃	〃	〃	1	包含層	江戸	10
126	漆椀	〃	〃	〃	1	包含層	江戸	10

番号	漆器の種類	遺跡名	カナ	所在地	点数	遺構	時代	文献
127	漆椀断片	尾上遺跡	ｵﾉｴ	湖北町尾上	5	包含層	江戸	10
128	漆付着曲物容器	伊井永田遺跡	ｲｲﾅｶﾞｸ	今津町日置前	1	包含層	***	7
129	赤漆塗り椀蓋	鴨遺跡	ｶﾓ	高島町鴨	1	***	平安	4
130	花蝶文漆蓋	〃	〃	〃	1	***	平安	4
131	六葉菊文型押漆皿	〃	〃	〃	1	***	平安	4
132	花文型押漆皿	〃	〃	〃	1	***	平安	4
133	漆椀	〃	〃	〃	1	***	平安	4
134	鶴亀文漆椀	〃	〃	〃	1	***	平安	4
135	並び柊文型押漆椀	〃	〃	〃	1	井戸	平安	4
136	漆椀	〃	〃	〃	1	***	平安	4
137	漆椀	青冷寺遺跡	ｼｮｳﾚｲｼﾞ	高島町永田	1	***	***	17
138	漆膜	新庄城遺跡	ｼﾝｼﾞｮｳｼﾞｮｳ	新旭町新庄	1	土壙	中世	8
139	漆塗り小札	〃	〃	〃	1	土壙	中世	8
140	漆椀	針江川北(Ⅱ)遺跡	ﾊﾘｴｶﾜｷﾀ	新旭町針江	1	溝	安土桃山	32
141	漆椀	〃	〃	〃	1	溝	安土桃山	32
142	漆椀	〃	〃	〃	1	溝	安土桃山	32
143	漆椀	〃	〃	〃	1	溝	安土桃山	32
144	漆絵椀断片	〃	〃	〃	1	溝	安土桃山	32
145	漆椀断片	〃	〃	〃	1	溝	安土桃山	32
146	漆椀断片	〃	〃	〃	1	溝	安土桃山	32
147	漆椀断片	森浜遺跡	ﾓﾘﾊﾏ	新旭町旭	1	***	近世	2
148	漆椀	〃	〃	〃	1	***	近世	2
149	漆椀	吉武城遺跡	ﾖｼﾀｹｼﾞｮｳ	新旭町旭	1	溝	安土桃山	32
150	漆椀	〃	〃	〃	1	溝	安土桃山	32
151	漆椀	〃	〃	〃	1	土壙	安土桃山	32
152	漆椀	〃	〃	〃	1	溝	安土桃山	32
153	漆椀	〃	〃	〃	1	溝	安土桃山	32
154	漆椀	〃	〃	〃	1	溝	安土桃山	32
155	片喰文型押漆椀	〃	〃	〃	1	溝	安土桃山	32
156	漆椀断片	〃	〃	〃	12	***	***	32
	合計点数				198			

表－2　漆椀法量計測表

左図：総高÷口径×100
右図：高台高÷高台径×100

番号	遺物名	遺跡名	口径	総高	比率
75	漆絵皿	横江遺跡	8.7	0.9	10.3
74	漆皿	横江遺跡	9.1	1.3	14.3
80	花文漆皿	街道遺跡	9.6	1.9	19.8
39	漆皿	妙楽寺遺跡	12.6	2.8	22.2
96	漆皿	慈恩寺遺跡	10.1	2.8	27.7
31	漆椀	妙楽寺遺跡	10.6	3.1	29.2
26	漆椀	妙楽寺遺跡	13.3	4.1	30.8
149	漆椀	吉武城遺跡	24.4	7.6	31.1
20	漆皿	妙楽寺遺跡	8.5	2.8	32.9
117	漆皿	延勝寺湖底遺跡	12.2	4.2	34.4
87	大膳銘漆椀	十七遺跡	16.8	6.0	35.7
42	漆椀	妙楽寺遺跡	15.5	5.8	37.4
46	漆椀	妙楽寺遺跡	14.7	5.9	40.1
9	黒漆塗り椀	野畑遺跡	14.2	5.5	40.8
106	花文黒漆塗り椀	大徳寺遺跡	14.4	5.9	41.0
98	漆椀	慈恩寺遺跡	14.1	6.5	46.1
141	漆椀	針江川北(Ⅱ)遺跡	18.0	8.3	46.1
34	漆椀	妙楽寺遺跡	15.2	10.1	66.4
63	漆椀	北萱御倉遺跡	13.7	9.4	68.6
33	漆椀	妙楽寺遺跡	12.2	9.5	77.9

番号	遺物名	遺跡名	高台径	高台高	比率
84	漆椀	三上遺跡	9.0	0.3	3.3
46	漆椀	妙楽寺遺跡	7.6	0.3	3.9
69	漆椀	南平遺跡	8.0	0.4	5.0
106	花文黒漆塗り椀	大徳寺遺跡	6.7	0.4	6.0
26	漆椀	妙楽寺遺跡	6.5	0.4	6.2
31	漆椀	妙楽寺遺跡	5.9	0.4	6.8
79	押型文漆椀	街道遺跡	8.6	0.8	9.3
98	漆椀	慈恩寺遺跡	7.2	0.8	11.1
55	漆椀	森遺跡	8.0	0.9	11.3
42	漆椀	妙楽寺遺跡	5.9	0.7	11.9
9	黒漆塗り椀	野畑遺跡	7.5	1.0	13.3
109	漆椀	延勝寺湖底遺跡	5.9	0.8	13.6
50	漆椀	勝町遺跡	7.2	1.0	13.9
87	大膳銘漆椀	十七遺跡	7.5	1.4	18.7
141	漆椀	針江川北(Ⅱ)遺跡	9.0	1.9	21.1
34	漆椀	妙楽寺遺跡	7.0	1.5	21.4
33	漆椀	妙楽寺遺跡	8.4	2.0	23.8
82	漆椀	小堤遺跡	8.2	2.0	24.4
63	漆椀	北萱御倉遺跡	8.1	2.0	24.7
81	漆椀	小堤遺跡	8.0	2.0	25.0
140	漆椀	針江川北(Ⅱ)遺跡	7.9	2.1	26.6
149	漆椀	吉武城遺跡	7.6	2.1	27.6
62	漆椀	北萱御倉遺跡	6.1	2.5	41.0

表－3　赤色顔料分析調査表

番号	遺物名	遺跡名	椀内面			椀外面			加飾(内)		加飾(外)		高台内	
			色	Fe	Hg	色	Fe	Hg	Fe	Hg	Fe	Hg	Fe	Hg
3	漆椀断片	浮御堂遺跡	赤	+	++	黒					+	++		
4	漆椀断片	〃	黒			黒				+++		+++		
5	漆椀断片	〃	黒			黒			+++					
6	漆蓋	〃	黒			黒							+++	
9	黒漆塗り椀	野畑遺跡	赤			黒					+	++		
10	花角文型押漆椀	南道賀	黒			黒			++	+	++	+		
14	漆椀断片	特別史跡彦根城跡	黒			黒					+			
17	赤漆塗り下駄	〃	赤	+++		*								
20	漆皿	妙楽寺遺跡	赤		+++	赤		+++						
21	漆椀	〃	赤	+	++	赤	+	++						
22	漆椀	〃	赤		+++	黒								
23	漆椀	〃	赤		+++	赤		+++					+	++
24	漆椀	〃	赤	+	++	赤		+++					+	++
25	漆椀	〃	赤			黒					++	+		
26	漆椀	〃	赤			赤		+++						
27	漆椀	〃	赤	+	++	黒					+	++		
28	漆椀	〃	黒			黒			+	++				
29	漆椀	〃	赤		+++	赤		+++						
30	漆椀	〃	赤	+	++	赤	+	++						
32	漆椀	〃	赤		+++	赤	+	++						
33	漆椀	〃	黒			黒						+++		
34	漆椀	〃	赤		+++	赤		+++						
35	漆椀	〃	赤		+++	赤		+++						
36	漆椀	〃	黒			黒			+++					
37	漆椀	〃	黒			黒					+	++		
38	漆椀	〃	赤		+++	黒								
39	漆椀	〃	赤		+++	赤		+++					+	++
40	漆椀	〃	赤	+	++	黒					+++		+	++
42	漆椀	〃	赤		+++	黒								
44	漆椀	〃	赤	+	++	黒					+	++		
45	折敷断片	〃	赤		+++	*								
46	漆椀	〃	黒			黒					++	+		
47	漆椀	〃	赤	+	++	黒					+	++	+	++
56	型押漆椀	勧学院遺跡	黒			黒			++	+	++	+		
57	花文型押漆椀	金剛寺遺跡	黒			黒			++	+	++	+		
58	花文型押漆椀	〃	黒			黒			+++		++	+		
59	漆椀断片	高木遺跡	赤		+++	黒								
60	漆椀断片	御館前遺跡	黒			黒					++	+		
66	漆椀	志那中遺跡	黒			黒					+	++		
67	漆皿断片	〃	赤		+++	黒								
86	花押漆椀	十七遺跡	赤		+++	赤	+	++						
87	大願銘漆椀	〃	赤			赤		+++					+	++
88	漆椀	〃	赤			黒							+	++
89	漆椀	〃	黒			黒					+	++		
90	漆椀断片	〃	黒			黒			++	+	++	+		
92	漆皿	慈恩寺遺跡	赤	+	++	黒								
103	漆椀	竜田遺跡	赤			赤		+++						
106	花文黒漆塗り椀	大徳寺遺跡	黒			黒					++	+		
107	漆椀	延勝寺湖底遺跡	赤	+++		黒								
109	漆椀	〃	赤	+++		赤	+++							
110	漆椀	〃	赤	+++		赤	+++							
111	漆塗り折敷	〃	赤		+++	*								
112	漆椀	〃	赤	+++		赤	+++							
113	漆塗り折敷	〃	赤	+++		黒								
116	漆椀	〃	赤	+++		赤	+++							
117	漆椀	〃	赤	+++		赤	+++							
120	漆椀	〃	赤	+++		赤	+++							
121	漆椀	尾上遺跡	赤		+++	赤		+++						
123	漆椀	〃	赤	+++		黒							+++	
124	漆塗り折敷板	〃	赤	+++		黒								
125	漆椀	〃	赤	+++		赤	+++							
126	漆椀	〃	赤	+++		黒					+++			
129	赤漆塗り椀蓋	鴈遺跡	赤	+++		赤	+++							
130	花蝶文漆蓋	〃	黒			黒					+++			
131	十六葵菊文漆皿	〃	黒			黒			++	+				
132	押型文漆皿	〃	黒			黒			++	+				
133	漆椀	〃	黒			黒								+++
134	鶴亀文漆椀	〃	黒			黒				+++				
135	扯び柊文型押漆椀	〃	黒			黒			+	++	+	++		
136	漆椀	〃	黒			黒					+++			
139	漆塗り小札	新庄城遺跡	*	+++		*								
140	漆椀	針江川北(Ⅱ)遺跡	黒			黒					+	++		
141	漆椀	〃	黒			黒					+	++		
142	漆椀	〃	黒			黒			+	++				
143	漆椀	〃	黒			黒							++	+
144	漆絵椀断片	〃	赤		+++	黒					+	++		
145	漆椀断片	〃	赤	+	++	赤		+++						
146	漆椀断片	〃	黒			黒					+	++		
147	漆椀断片	森浜遺跡	赤	+++		黒								
148	漆椀	〃	赤			赤		+++						
149	漆椀	吉武城遺跡	赤		+++	赤		+++						
151	漆椀	〃	黒			黒					+	++		

が高い。巻胎漆器の国外の遺例として、韓国の慶州所在の雁鴨池遺跡出土「柳枝成形漆器」が有名である。国内では正倉院宝物の「漆胡瓶」、「銀平脱合子」などが近年X線透過検査により製作技法が解明された。また、奈良平城宮跡から特殊な漆器として概要が報告されている。

資料－20～48　妙楽寺遺跡出土漆器

妙楽寺遺跡は、彦根市南部に位置する室町時代の集落遺跡である。漆椀(26)は口縁部に布を着せ内外を朱漆で塗っており、高台内にうるみ漆で文字を書いている。妙楽寺遺跡の3次にわたる発掘調査により28点の漆器が出土しており、漆絵には大根を描いたものもあり、表情は豊かで器種も多様である。棗蓋(48)は蓋のみの出土であり身の器形は不明である。

資料－54　新庄馬場遺跡出土扇文漆椀

黒漆塗り椀の見込み底部に朱漆で七本骨扇文を描いている。高台は欠損しており、高台内は漆を塗らず木地を残している。

資料－56　勧学院遺跡出土押型文漆椀

この椀は押型文の加飾がみられる。口の字形の押型を3行3列の9個の単位とし、椀内外に押している。使用の色漆は朱漆である。高台を欠いているが押型文の優品である。同様の文様とみられる椀は、野洲町街道遺跡の資料(79)がある。

資料－57、58　金剛寺遺跡出土押型文漆椀

金剛寺遺跡からは押型文漆椀が2点出土している。文様は2点とも同様のタイプで、押型文の単位は中央に米印を、周囲に○印8個を配している。椀の曲面に合わなかったのか、スタンプの印面が届かず朱漆がかすれている部分が見られる。

資料－61　瓦屋寺カマエ遺跡出土漆椀蓋断片

漆椀蓋断片高台内家紋・反り四つ目文は佐々木六角氏の家紋である。家紋が環状つまみ内にみられることから椀の蓋と考えられる。

資料－62～64　草津市御倉遺跡出土漆器

草津市御倉遺跡からは漆椀が十数点出土しているが、その中で体部に家紋を付すもの(62)や大ぶりの椀(63)がある。

資料－65　草津市志那湖底遺跡出土黒漆塗り鞍

木製の鞍の出土資料は県内で6点ほどみられるが、その中で黒漆を塗っているものは、草津市志那湖底遺跡と能登川町斗西遺跡の資料(104)である。志那湖底遺跡出土の黒漆塗り鞍は、前輪部分で約半分を欠いているが漆膜は良く遺存している。

表－4　樹種および加飾・文様観察表

番号	遺　跡　名	遺　物　名	樹　種	文様・銘・刻文
5	浮御堂遺跡	漆椀断片	ブナ？	漆絵
6	〃	漆蓋	トチ	つまみ内に弁柄漆で「一」の字
10	南滋賀遺跡	花角文型押漆椀	トチ？	押型文
14	特別史跡彦根城跡	漆椀断片	トチ	紅葉文蒔絵、蒔絵部(Au)検出
15	〃	黒漆塗り箸	タケ？	
16	〃	黒漆塗り下駄	針葉樹	塗膜剝離
19	松原内湖遺跡	巻胎漆器断片	ヒノキ	容器の蓋か、加飾なし
23	妙楽寺遺跡	漆椀	－	高台内朱漆で文字
24	〃	漆椀	－	高台内朱漆で「六」の文字
25	〃	漆椀	－	漆絵
26	〃	漆椀	ケヤキ？	口縁布着せ、高台内うるみ漆で文字
29	〃	漆椀	トチ	
32	〃	漆椀	ブナ？	
33	〃	漆椀	クリ？	漆絵
35	〃	漆椀	－	高台断片、「寶一」の文字
36	〃	漆椀	ブナ	見込みに大根の漆絵
37	〃	漆椀	ブナ？	
39	〃	漆皿	－	高台内「行」の朱漆文字
40	〃	漆椀	ブナ？	高台内判読不明の朱漆文字
44	〃	漆椀	ブナ？	
46	〃	漆椀	トチ	
48	〃	蓋	ヒノキ	
50	勝町遺跡	漆椀	－	万両の漆絵
52	〃	漆椀底部	－	楓の葉の漆絵
53	〃	漆椀底部	－	「大」の文字
54	新庄馬場遺跡	扇文漆椀	トチ	見込みに七本骨扇文
56	勧学院遺跡	型押漆椀	ブナ？	朱漆＋弁柄による押型文
57	金剛寺遺跡	花文型押漆椀	トチ	朱漆＋弁柄による押型文
58	〃	花文型押漆椀	トチ？	朱漆＋弁柄による押型文
63	御倉遺跡	漆椀	クリ？	大椀
66	志那中遺跡	漆椀	－	漆絵、底部墨書で「へ」の字
68	南平遺跡	漆椀	－	底部補修孔、高台なし
69	〃	漆椀	－	底部墨書「一」、高台なし
73	山賀遺跡	漆椀	トチ	断片
86	十七遺跡	花押漆椀	－	高台内花押
87	〃	大膳銘漆椀	－	高台内「大膳」銘
88	〃	漆椀	ブナ？	高台内「大」
89	〃	漆椀	－	漆絵
90	〃	漆椀断片	－	漆絵
92	慈恩寺遺跡	橘文漆椀	ブナ？	橘文漆絵
93	〃	漆皿	－	体部「大」、高台内「一」
94	〃	漆椀	－	高台なし
98	〃	漆椀	－	見込み菱形文漆絵
102	宮ノ前遺跡	橘文黒漆椀	－	橘文漆絵
103	竜田遺跡	漆椀	－	うるみ漆で海老を描く、口縁布着せ
104	斗西遺跡	黒漆塗り鞍	カエデ	断片
105	今安楽寺遺跡	透彫り光背	針葉樹	漆箔
106	大徳寺遺跡	花文黒漆塗り椀	トチ	体部漆絵
109	延勝寺湖底遺跡	漆椀	トチ	見込みに布跡
110	〃	漆椀	トチ	
111	〃	朱漆塗り折敷	針葉樹	断片
112	〃	漆椀	トチ	
113	〃	漆塗り折敷	ヒノキ	朱漆塗り

番号	遺跡名	遺物名	樹種	文様・銘・刻文
114	延勝寺湖底遺跡	漆椀蓋	ヒノキ？	竪木取り
115	〃	漆椀	針葉樹	竪木取り、家紋付き
116	〃	漆椀	トチ	
118	〃	漆鉢	クリ？	大型の椀または鉢
119	〃	漆椀	トチ	
120	〃	漆椀	トチ	
121	尾上遺跡	漆椀	トチ	八条のカンナ削り横線
122	〃	漆椀	トチ	体部家紋
123	〃	漆椀蓋	トチ	つまみ内に弁柄漆で「上」の字
124	〃	漆塗り折敷板	ヒノキ？	折敷または膳部材
125	〃	漆椀	トチ	
126	〃	漆椀	ブナ	
128	伊井永田遺跡	漆曲物容器	－	底部に漆付着、漆保管容器か
129	鴨遺跡	赤漆塗り椀蓋	カツラ？	
130	〃	花蝶文漆蓋	オニグルミ？	花蝶文、一部炭化
131	〃	十六葉菊文型押漆皿	－	十六葉菊押型文、「大」線刻
132	〃	花文型押漆皿	トチ？	押型文
133	〃	漆椀	－	見込底部「へ」の朱漆文字
134	〃	鶴亀文漆椀	トチ？	見込み鶴亀文漆絵
135	〃	並び柊文型押漆椀	トチ	並び柊押型文、高台内焼き印
136	〃	漆椀	カツラ	体部・見込み底部文様
138	新庄城遺跡	漆膜	－	短甲の漆塗膜か
140	針江川北(Ⅱ)遺跡	漆椀	カツラ	沢瀉文、高台内轆轤ツメ跡
141	〃	漆椀	カツラ	体部内外漆絵
142	〃	漆椀	トチ	見込家紋、高台内花押様刻文
143	〃	漆椀	トチ	見込み家紋様角文字
144	〃	漆絵椀断片	トチ	体部漆絵
146	〃	漆椀断片	トチ	体部内外漆絵
149	吉武城遺跡	漆椀	イヌシデ節	高台内黒漆塗り
151	〃	漆椀	－	見込み桔梗漆絵文

資料－66　草津市志那中遺跡出土漆椀

この資料は、飛雲文ないし草花文の漆絵が朱漆で描かれている。木胎はかなり薄く挽かれており、高台を欠き高台内部は漆をかけず、墨書で「へ」の字が書かれている。

資料－68、69　草津市南平遺跡出土椀

この漆椀の底部は、高台を削り出さずチョウナの削り跡を残している。うち1点(68)は補修のため紐を通す穴とみられるものが空いており、大切に利用されたようである。

資料－71　守山市川田遺跡出土蓮弁

仏像の台座を飾る蓮弁とみられ黒漆塗りで金箔を貼った、いわゆる漆箔仕上げのものである。

資料－72　守山市杉江遺跡出土建築部材

この部分は、幅13.5cm、長さ16.0cmばかりの黒漆塗りの板状のもので、寺院もしくは神社建築の廃棄材とみられる。

資料－75　守山市横江遺跡出土漆絵皿

横江遺跡は中世の集落遺跡で、同遺跡出土の漆絵皿は2点で、うち1点の見込みに桃とみられる果実が描かれている。

資料－86～90　安土町十七遺跡出土漆器

この遺跡は中世の安土の城下町遺跡として知られる。花押朱漆椀(86)は、館跡から検出された井戸内から出土しており、高台内に花押らしきものを朱漆で書いているがいまのところ花押の判読ならびに調査はできていない。大善銘朱漆椀(87)は、遺構面から検出されており、高台内に朱漆で「大善」の銘が書かれている。この大善とは役人の食事をつかさどる大善職相当の役所を表すのであろうか、それとも個人の所有物と解釈して「銘銘器」であろうか。いずれにしても花押とならび銘のある漆椀として興味ある資料である。他に朱塗り椀3点の出土がみられる。

資料－91～98　安土町慈恩寺遺跡出土漆器

慈恩寺遺跡は、前述の十七遺跡と同様に安土の城下町遺跡である。漆椀(92)の資料は、体部に橘文が描かれている。漆皿(93)は体部に「大」、高台内に「一」の字がうるみ漆で書かれている。漆椀、漆皿の資料はいずれも下地、塗膜が堅牢である。

資料－101　日野町小御門遺跡出土用途不明品

この遺跡で検出された土壙墓から、用途不明の黒漆膜が2点出土している。展開すれば円形になるとみられる漆膜のみ遺存している。同遺跡の遺構は土壙墓で、飛雲文青磁椀が漆器とともに

副葬されていた。この漆器は漆皮製品の可能性もある。

資料－103　五個荘町竜田遺跡出土朱漆椀

木地にサビ下地、口縁に布着せをし、朱漆を丁寧に塗り重ね、さらに体部にうるみ漆で海老を描いている。完形品ではないが、漆膜が堅牢な優品である。

資料－105　能登川町今安楽寺遺跡出土透彫り光背断片

この漆器は、仏像光背断片で唐草文透かし彫りの仏像の光背で漆箔仕上げである。

資料－107～120　湖北町延勝寺湖底遺跡出土漆器

赤漆椀(109)は、見込みに漆塗膜の剝離部分があり下地が露出しているが、その部分に布目がみられる。通常布着せは口縁に限られる場合が多いことから、この布は木地にキズがありそれを補修したものであろう。朱漆塗り折敷(113)は、3㎝程度のヒノキ材の折敷側板の桜皮閉じ部分である。下地は観察できないが、朱漆の膜は部分的に良く残っている。漆椀蓋(114)は、堅木取りで口径に対して高さが高く汁椀の蓋と考えられる。漆椀(115)も堅木取りとし、蓋の二方向に家紋を描いている。赤漆皿(117)は、8割以上の遺存度を呈し、木地の変形も少なく下地もしっかりとしている。漆鉢(118)は、高台径が10㎝以上ある大型の漆椀で、体部を大きく欠く。

資料－121～127　尾上遺跡出土漆器

朱漆椀(121)は、体部に轆轤カンナによる八条の線を削り込み、帯状に黒漆を塗っている。椀内と体部の条線より下部を朱漆塗りとしている。漆椀(122)は、椀内を赤漆塗り、体部高台を黒漆塗りとして、体部の四方に家紋を配している。漆椀蓋(123)のつまみ内に「上」と赤漆による文字が見られる。漆塗り折敷板(124)は、長さ約23㎝、幅13㎝、厚さ0.5㎝を計り、二方に木釘があることから、折敷または膳の部材と考えられる。内面に赤漆が僅かながら残る。

資料－129～136　鴨遺跡出土漆器

赤漆塗り椀蓋(129)は、内外を弁柄漆で塗布された蓋で、環状つまみの内部も赤漆塗りである。花蝶文漆器蓋(130)は、堅木取りで弁柄漆で花蝶文を描いている。また焼けた跡がみられ漆の剝離が激しい。押型文漆皿(131)は、黒漆塗り皿に十六葉の菊をかたどった押型を皿見込みに3輪配している。高台は当初から作り出さず、木地のままであるが下地の漆が付着している。皿の裏中央に「大」の線刻がみられる。

押型文漆皿(132)は断片であるが、(131)の皿と同様押型で加飾されている。漆椀(133)は、高台部分のみの断片であるが、高台内に朱漆により「へ」の字文字が見られる。鶴亀文漆椀(134)の断片は、見込みに朱漆で鶴亀文が描かれている。押型文漆椀(135)は、黒漆塗りの椀内外に並び柊文に類似した文様を押型文で配している。使用顔料は朱である。高台と高台内には漆は塗られず、高台自体はもともと高く挽かれなかったようで、磨滅している。また、高台内には「コ」の字形

の焼印がみられる。木地を薄く挽き意匠的にも優品である。

漆絵椀(136)は、木地を薄く挽き、黒漆が塗られている。高台は磨滅により低くなっている。体部の二方向と見込みに弁柄漆で丸が描かれ、引っ掻き技法で横線を数条入れている。優雅でおおらかな文様を配した漆椀である。

資料－138、139　新庄城遺跡出土漆器

この遺跡からは漆膜(138)と漆塗り小札(139)が出土している。漆膜は朱塗りの塗膜のみが残存しており、短甲と考えられる。また、小札は弁柄漆塗りの残欠である。

資料－140～146　針江川北（Ⅱ）遺跡出土漆器

漆椀(140)は高台を高く挽いた椀である。体部および見込みに朱漆で沢瀉（おもだか）文が描かれている。高台内も黒漆が塗布され、「×」の字形に轆轤のツメ跡とみられる傷がみられる。漆椀(141)は大ぶりで、体部内外に朱漆で絵が見られるが漆膜の剝離によって絵柄は定かではない。漆椀(142)の底部断片で、見込みに家紋らしきものが朱漆で描かれ、高台内には花押様の刻文が塗膜上から刻まれている。漆椀(143)もおおぶりで、見込みに家紋であろうかやや隅丸の角文字が描かれている。高台内には「一」の字が朱漆で描かれている。漆絵椀断片(144)は、見込みに漆を塗布し体部に同じく朱漆で立木の文様が描かれている。

資料－149～156　吉武城遺跡出土漆器

漆椀(149)は、内面外面朱漆塗りの椀断片である。高台内は黒漆塗りである。漆椀(151)は断片であるが、見込みには朱漆で桔梗が一輪描かれている。

5．観察のまとめ

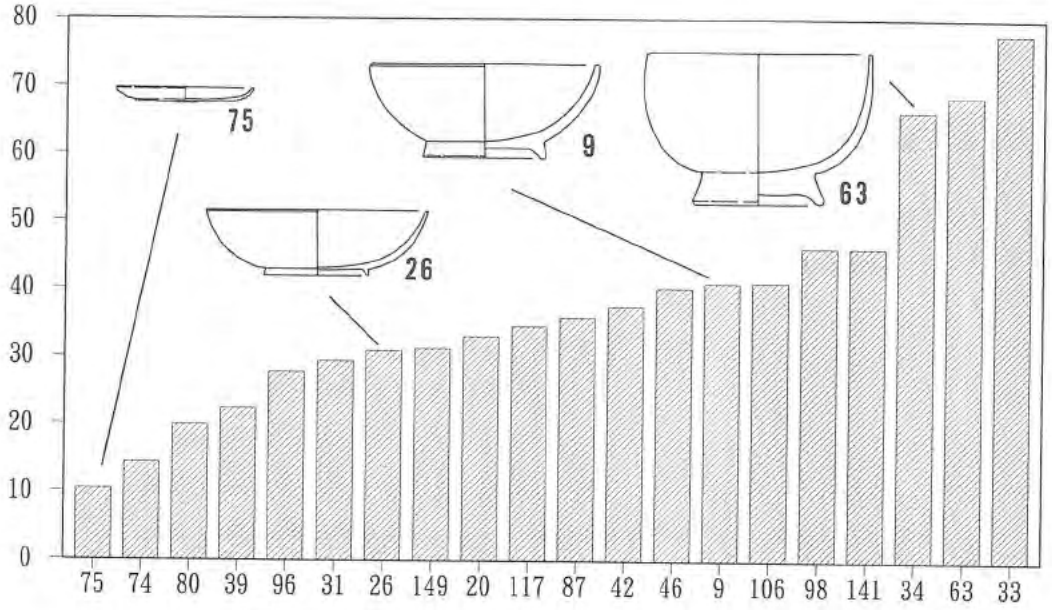
木地について

木地の観察では、木胎の樹種や木胎の木取りについて調査した。そのなかで椀ものはほとんどが横木取りであるのに対して、資料－114、115、130の蓋については竪木取りで、木芯を含んでいるため放射方向の割れを生じている。また蓋ものはつまみ部を厚く挽いているのが特徴である。

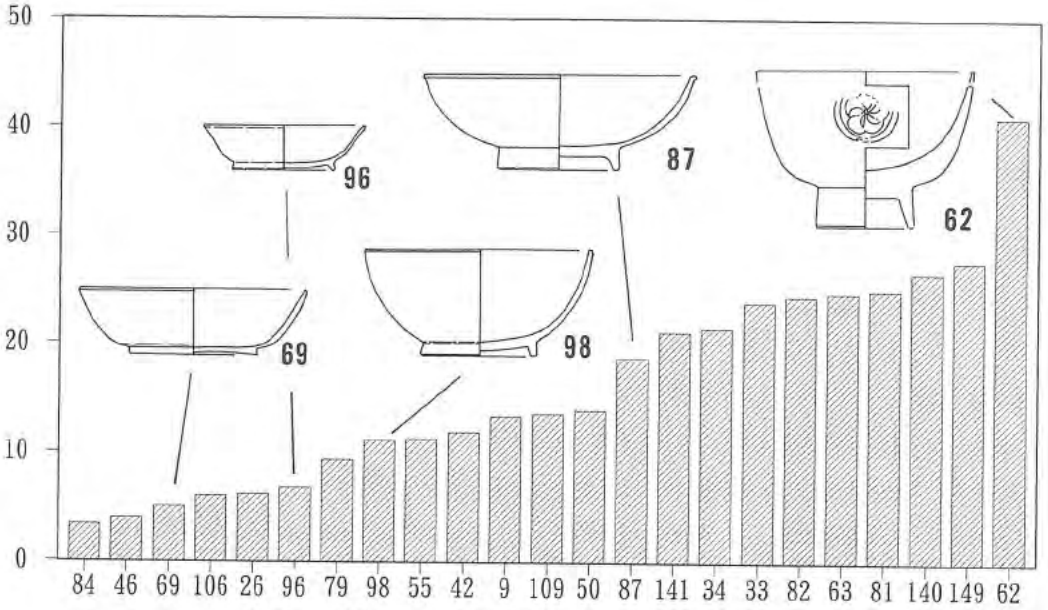
平安から鎌倉時代にかけての古い時期の椀では高台が低いものや、高台を削り出していないもの、高台の内側に轆轤をかけないもの、高台内に漆を塗布しないものなどが散在する。草津市南平遺跡の例については、うち１点は底部をチョウナで削って仕上げた痕跡が見られる。また、通常は高台内に轆轤をかけるさいにツメ跡は削り取られるので残ることは少ないが、高台内にロクロのツメ跡を残すものもみられる。口径と総高、高台については口径と高さについての計測表と比率についてグラフ化したが、それぞれの器種を反映している。

下地について

下地調整の観察では、鉱物系の砥粉や他の粉と漆によるサビ下地か、あるいは炭粉と柿渋によ



たて軸：比率　　総高・口径の比率
よこ軸：資料番号　75 横江遺跡　　26 妙楽寺遺跡
9 野畑遺跡　　63 御倉遺跡



たて軸：比率　　高台高・高台径の比率
よこ軸：資料番号　69 南平遺跡　　96 慈恩寺遺跡
98 慈恩寺遺跡　87 十七遺跡
62 御倉遺跡

る下地かなど区別する必要がある。そのことは下地調整作業の簡略化ないし材料の節約を目的としていることからも品質の判断基準として重要である。今回は果たせなかったが、実際には断面の薄膜試料の顕微鏡観察ならびにX線マイクロアライザー等の機器を用いた分析が必要となる。

実体顕微鏡下で断面等を観察した限りでは、資料－26、103の椀口縁に布着せが観察された。また、漆膜の遺存状態は木胎があまり腐朽せず、サビ下地に堅牢な漆膜を塗布しているものに健全なものがみられるのは当然であろうか。こうした素材の選択と製作工程の管理は、需要側と量的生産に追われた生産地の事情などを反映しているようである。

赤色顔料について

赤色の漆器であっても、漆に混入された顔料が朱漆か弁柄漆かは肉眼ではわかりにくい。今回ケイ光X線分析による調査をおこなった赤色の漆椀82点について次のような傾向がみられた。

椀内面の漆に使用された赤色顔料のうち、朱は28点、弁柄は16点、朱と弁柄の混合あるいは互層とみられるもの10点。椀外面では、朱は18点、弁柄は８点、朱と弁柄の混合あるいは互層とみられるもの４点。椀内面の漆絵や文様等加飾のあるもので、朱は11点、弁柄９点、混合３点。椀外面の加飾部で、朱は25点、弁柄４点、混合23点。高台内に文様ないし記号のあるものでは、朱９点、弁柄３点、混合８点であった。

出土遺跡で赤色顔料をみた場合、彦根市妙楽寺遺跡の漆器のほとんどは朱を用いており、安土町十七遺跡出土の「大善」銘漆椀や花押漆椀、同町慈恩寺遺跡の一括漆器についても朱が優勢である。五個荘町竜田遺跡の椀からも朱が強く検出されている。また、近江八幡市勧学院、金剛寺遺跡出土の押型文漆椀は鎌倉期のものと思われるが、押型文に用いられた顔料については朱、弁柄ともに検出されており混合しての使用であろうか。湖北町延勝寺、尾上の両遺跡については江戸期のもので、折敷などを除きほとんどが弁柄である。平安時代の初期の官衙的色彩の濃い遺跡として知られる高島町鴨遺跡の漆椀は、木地を薄く挽いた押型文や漆絵の加飾部には朱が用いられていた優品がみられる。

押型文漆椀について

今回の集成での成果として、押型文を配した漆器が５遺跡から８点出土していることが確認された。南滋賀遺跡は花弁文、勧学院遺跡の椀は幾何的な文様、金剛寺遺跡は抽象化された花文、街道遺跡では実測図で見た限り勧学院遺跡の椀と同様の文様と思われる。鴨遺跡では菊形文、花弁文、並び柊文とみられる文様を配している。また、吉武城遺跡からは花弁文漆椀断片が出土している。

押型文での装飾は、平安から室町時代にかけての技法のようで、以降例をみない。そこで問題となるのは押型文に使われた型の素材である。型に利用されるものとして木、革、フェルト様のものが考えられるが、押型に使われた遺跡からの遺物は出土しておらず、また、伝統的な漆工芸にもみられない技法である。

革を利用した場合、朱漆を印面に付けながら椀の曲面に沿って押しながら加飾していくことは

充分想定できるが、今のところ推定の域をでない。資料－56のような場合複数の押型を9個まとめた単位であったとみられる。

6．県内出土漆製品の集成についてのまとめ

縄文時代から古墳時代にいたる漆製品について簡単に整理してみる。縄文時代では、狩猟具の弓に実用と装飾を兼ね備えた漆塗膜を施し、また耳環や竪櫛、腕輪など装身具には漆に赤色顔料を混ぜて使用するなど、その製作技法は早くから確かなものとなっていた。現在、縄文時代の貝塚として知られる粟津湖底遺跡の資料整理を実施しているところであるが、この遺跡からも竪櫛や漆塗膜の存在する土器等の資料がみられ、技法、材料について調査計画を立てている。

弥生時代に至っては県内に類例が少なく、赤色顔料を塗布した木製容器、丹塗り土器などがいくつか出土しているが、確実に漆塗膜が観察される例は少ないのが特徴である。

古墳時代は、古墳の副葬品に漆塗り製品が数多く見られるようになり、武器、武具、装身具に加え葬送のための用具、祭祀具などにも漆を使用したものがあり、八日市市雪野山古墳の副葬品に多数の漆製品が出土し、現在調査研究が継続されている。このように材料および技法や装飾文様、さらに用途を考える上で貴重な資料が加わった。

奈良時代の資料で漆工技術の特異な例として、松原内湖遺跡出土の巻胎漆器断片があげられるが、とくに下地調整などから見て中国からの伝来品の可能性もあることが最近の調査でわかってきた。

中近世の資料について、遺跡の成り立ちや埋蔵環境により漆器の出土する遺跡はある程度限られ、平安から鎌倉時代においては地方官衙あるいは役所的な色彩をもつ地域から、室町から安土桃山時代にかけては城跡、町屋、城下町遺構に多く出土している。こうした出土漆器を保管するため漆器の状態に応じた保存処理の手だてを講じる必要がある。

7．結語

漆工の変遷については、前編、後編を通しての限られた集成では多くを語れない。各時代、地域において木地や下地調整、加飾法について一定の流れがあり、その時代の社会的背景のもと、漆器の生産と消費の問題、さらに生活風俗についても多くのことを教示している。

漆器の分類整理については、木地、下地、使用赤色顔料、加飾法などの観察が特に重要であることはこれまで繰り返して延べてきた。しかしながら、漆塗膜断面の顕微鏡観察および下地の材質については、ともに漆製品研究の基本でありながら充分に調査できず本稿に掲載できなかった。今後、漆工芸の研究者とも交流し調査を進めていきたい。文末ながら本集成に協力いただいた調査担当者、ならびに貴重な助言をいただいた、㈶京都市埋蔵文化財研究所の岡田氏、正倉院事務所の成瀬氏、㈶元興寺文化財研究所の北野氏にお礼を申し上げます。

註1．木胎の樹種同定

木地に使用される木質の樹種同定のため、可能な限り安全カミソリで木口、板目、柾目の切片

試料を採取し顕微鏡下で観察し、樹種および加飾・文様観察表（表－4）としてまとめた。なお、木胎の腐朽が著しいものや収縮しているものなど、同定できなかったものがいくつかあった。

註2．赤色顔料の調査

使用顔料の同定および半定量分析は、安土城考古博物館設置のセイコー電子工業社製エネルギー分散型ケイ光X線分析装置・大型試料室タイプ（450×280×140㎜）を利用した。測定条件は次の通りとした。

照射径：10㎜、管電流：45μA、管電圧：　50kv、ターゲット：Rh、検出器：Si(Li)半導体検出器、測定雰囲気：大気、測定時間：30sec、定量方法：FP法

漆器の漆塗膜に含まれる顔料、主に赤色顔料については椀の内部、椀体部、加飾部の文様ないし文字部分については椀内外を計測した。さらに高台内に文字などが存在する場合も計測した。分析は、水銀朱（硫化水銀・HgS）と弁柄（酸化鉄・FeO_2）について定性分析を行うとともに、検出された水銀（Hg）と鉄（Fe）についてマーカーを設定しX線強度を計測し3段階評価で表にまとめた。なお、完形もしくは完形に近い椀の内面についての分析は機器の制約もあって測定できなかった。

註3．押型文の用語について

本文では、型押技法（いわゆるスタンプ文）による漆器について押型文の用語を使用したが、たとえば「菊花文型押漆椀」などと表わした方が資料の呼称としてはわかりやすい。

参考文献（漆工芸の材料や技法に関するもの）

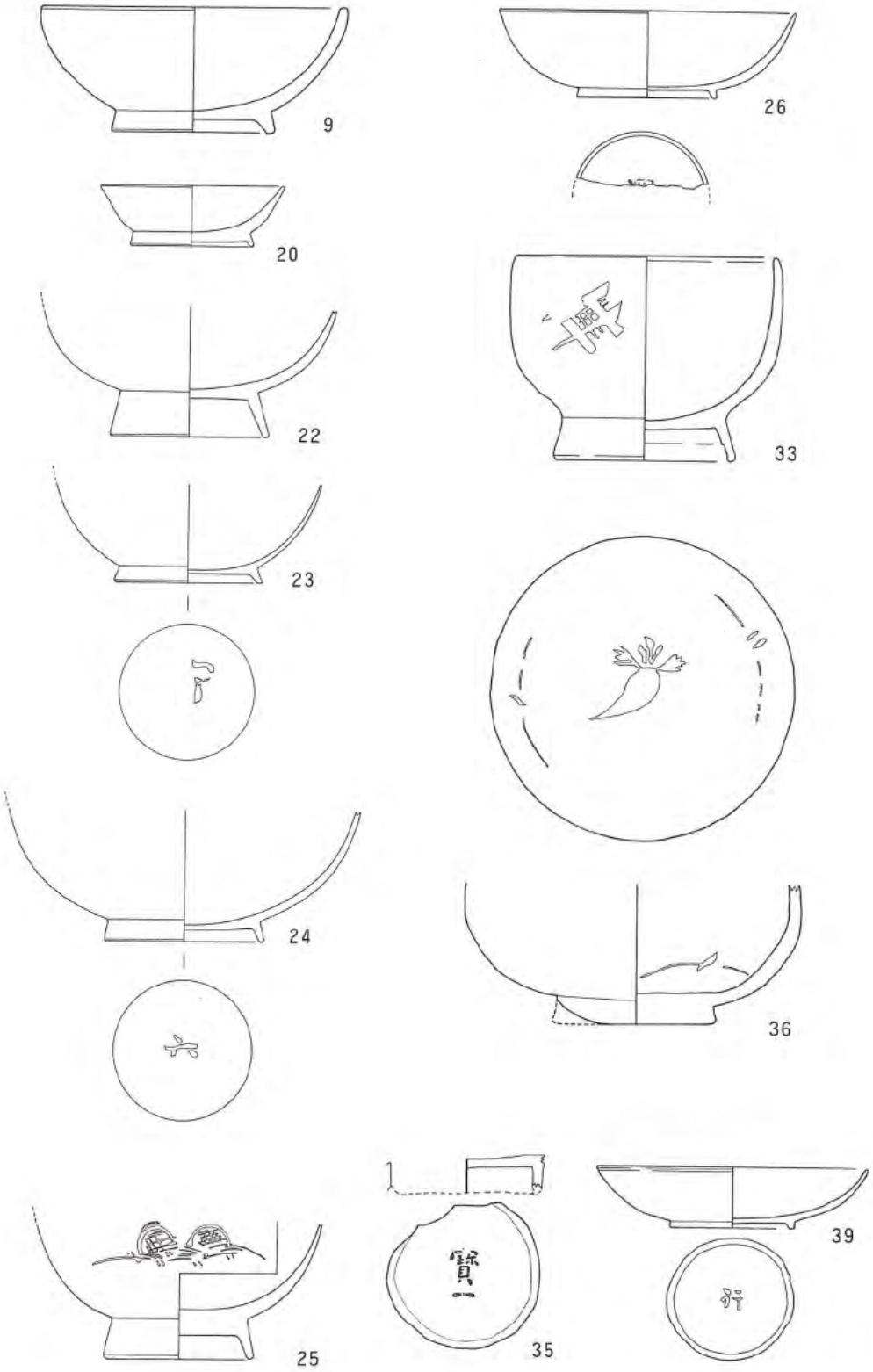
江本義理「古文化財のX線分析法による材質測定資料Ⅲ・漆芸品」（『保存科学№19』1981年）
熊野谿従「漆文化財の研究法」（『古文化財の自然科学的研究』1984年）
工芸出版「うるし工芸辞典」（1978年）
橋本鉄男「ろくろ」（『ものと人間の文化史31法政大学出版局』1979年）
永嶋正春「中世漆器の塗膜層構成について」（『西川嶋－能登における中世村落の発掘調査』1987年）
北野信彦「高野山宝性院跡出土漆器資料の製作技法」（『元興寺文化財研究　№30』1988年）
北野信彦「近世武家社会における生活什器としての漆器資料」（『愛知大学総合郷土研究所紀要第38輯』1993年）
北野信彦「日常生活什器としての近世漆器椀の生産と消費」（『食生活と民具』1993年）
拙稿「松原内湖遺跡出土の巻胎漆器断片の技法について」（『滋賀考古学論叢4』1988年）
木村法光「正倉院の合子」（『同朋101号』1986年）
拙稿「滋賀県内出土漆製品集成－前編－」（『滋賀県文化財保護協会紀要第5号』1992年）
岡田文男・成瀬正和・中川正人「松原内湖遺跡出土漆塗り木製品の材質と技法」（『松原内湖遺跡発掘調査報告書Ⅱ』1992年）

岡田文男「中国古代漆器の下地に混和された骨粉について」(『日本文化財科学会・第10回大会研究発表要旨集』1993年)
岡田文男「斗西遺跡出土漆器の塗膜構造の分析」(『能登川町埋蔵文化財調査報告書第27集』1993年)

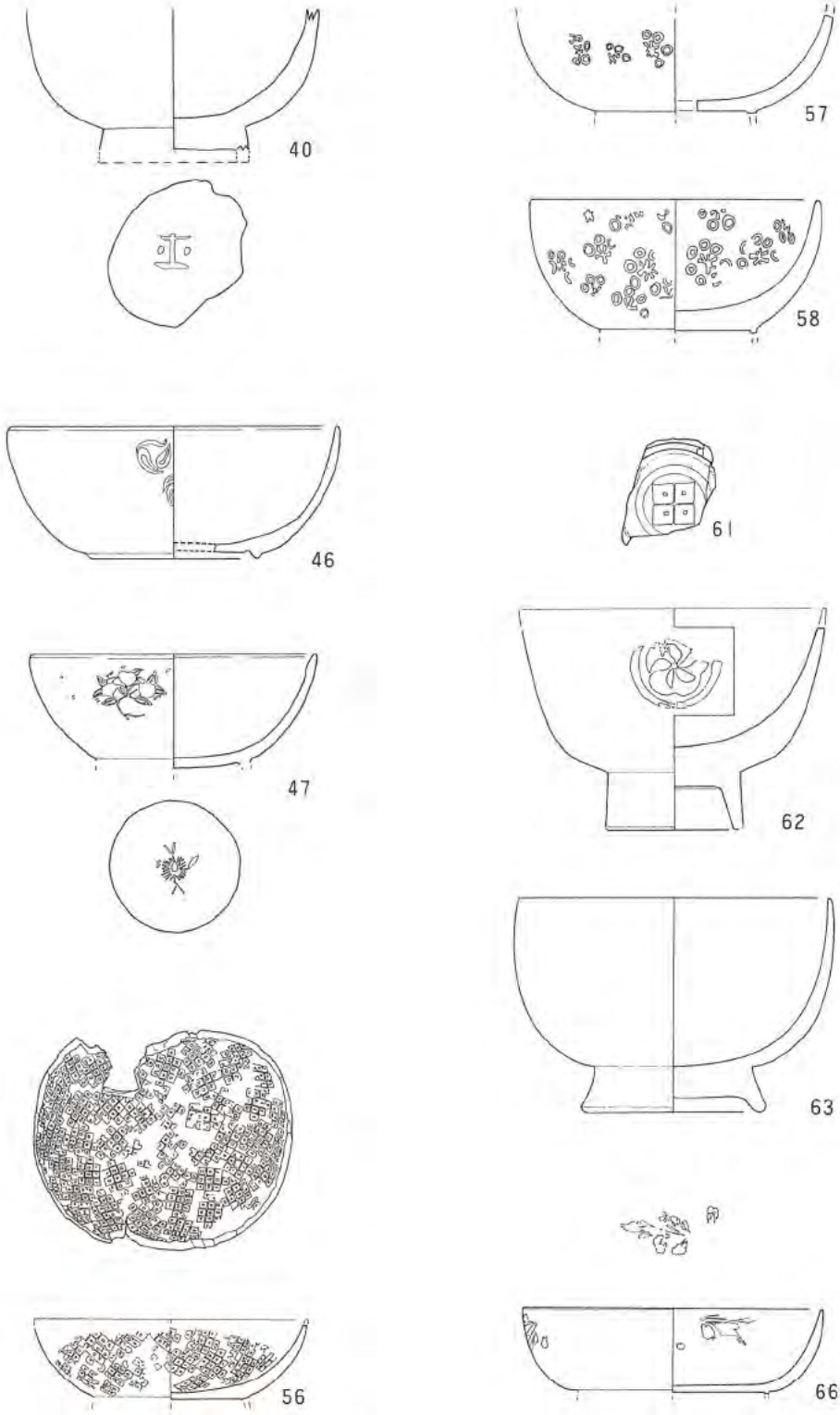
報告書関係(番号は出土漆製品一覧の文献に対応)

(1) 『国道8号線バイパス発掘調査報告書II』(県教委・㈶県文化財保護協会 1973年)
(2) 『森浜遺跡発掘調査報告書』(県教委・㈶県文化財保護協会 1978年)
(3) 『ほ場整備報告書VI－2』(県教委・㈶県文化財保護協会 1979年)
(4) 『高島町歴史民俗叢書第二輯』(高島町教育委員会 1980年)
(5) 『滋賀文化財だよりNo.14』(㈶県文化財保護協会 1978年)
(6) 『ほ場整備報告書X－5－1』(県教委・㈶県文化財保護協会 1982年)
(7) 『今津町文化財調査報告書第2集』(今津教育委員会 1983年)
(8) 『国道・161号バイパス調査概要(昭和57年度) 3』(県教委・㈶県文化財保護協会 1983年)
(9) 『古代文化vol.35』(古代學協会 1983年)
(10) 『びわ湖と埋蔵文化財』(水資源開発公団・県教委 1984年)
(11) 『ほ場整備報告書XI－1』(県教委・㈶県文化財保護協会 1984年)
(12) 『能登川町埋蔵文化財調査報告書第2集』(能登川町教育委員会 1985年)
(13) 『能登川町埋蔵文化財調査報告書第5集』(能登川町教育委員会 1986年)
(14) 『滋賀文化財だよりNo.110』㈶県文化財保護協会 1986年)
(15) 『ほ場整備報告書XIII－4』(県教委・㈶県文化財保護協会 1986年)
(16) 『新守山川改修工事関連遺跡発掘調査概要III』(県教委・㈶県文化財保護協会 1986年)
(17) 『高島町文化財資料集－6』(高島町教育委員会 1986年)
(18) 『草津川河川改修事業に伴う発掘調査概要1』(県教委・㈶県文化財保護協会 1986年)
(19) 『宇曽川災害復旧助成事業に伴う妙楽寺遺跡II』(県教委・㈶県文化財保護協会 1986年)
(20) 『新守山川改修工事関連遺跡発掘調査概要IV』(県教委・㈶県文化財保護協会 1987年)
(21) 『野洲町文化財資料集1986－3』(県教委・㈶県文化財保護協会 1987年)
(22) 『草津川河川改修事業に伴う発掘調査概要2』(県教委・㈶県文化財保護協会 1987年)
(23) 『野洲町文化財資料集1988－1』(野洲町教育委員会 1988年)
(24) 『日野町埋蔵文化財発掘調査報告書第5集』(日野町教育委員会 1988年)
(25) 『草津川河川改修事業に伴う発掘調査概要3』(県教委・㈶県文化財保護協会 1988年)
(26) 『宇曽川災害復旧助成事業に伴う妙楽寺遺跡III』(県教委・㈶県文化財保護協会 1989年)
(27) 『横江遺跡発掘調査報告書II』(県教委・㈶県文化財保護協会 1990年)
(28) 『野洲町文化財資料集1990－3』(野洲町教育委員会 1990年)
(29) 『ほ場整備報告書XVIII－2』(県教委・㈶県文化財保護協会 1991年)
(30) 『松原内湖遺跡発掘調査報告書II』(県教委・㈶県文化財保護協会 1992年)

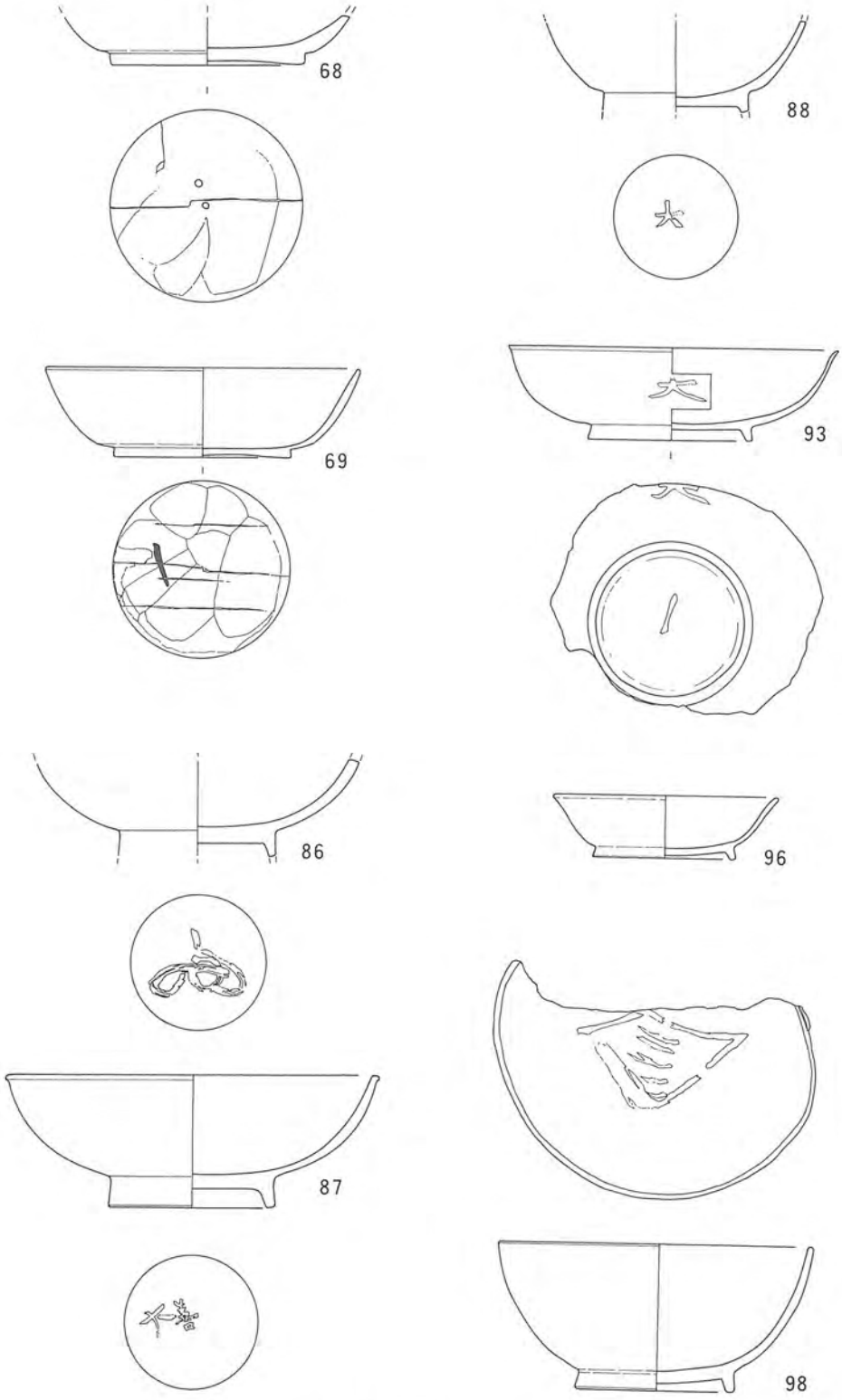
(31) 『ほ場整備報告書ⅩⅧ－６』（県教委・㈶県文化財保護協会　1993年）
(32) 『新旭町内遺跡発掘調査報告書Ⅴ』（県教委・㈶県文化財保護協会　1993年）
(33) 『南滋賀遺跡』（県教委・㈶県文化財保護協会　1993年）
(34) 『能登川町埋蔵文化財調査報告書第27集　斗西遺跡』（能登川町教育委員会　1993年）
(35) 『ほ場整備報告書』ⅩⅣ－６（県教委・㈶県文化財保護協会　1987年）



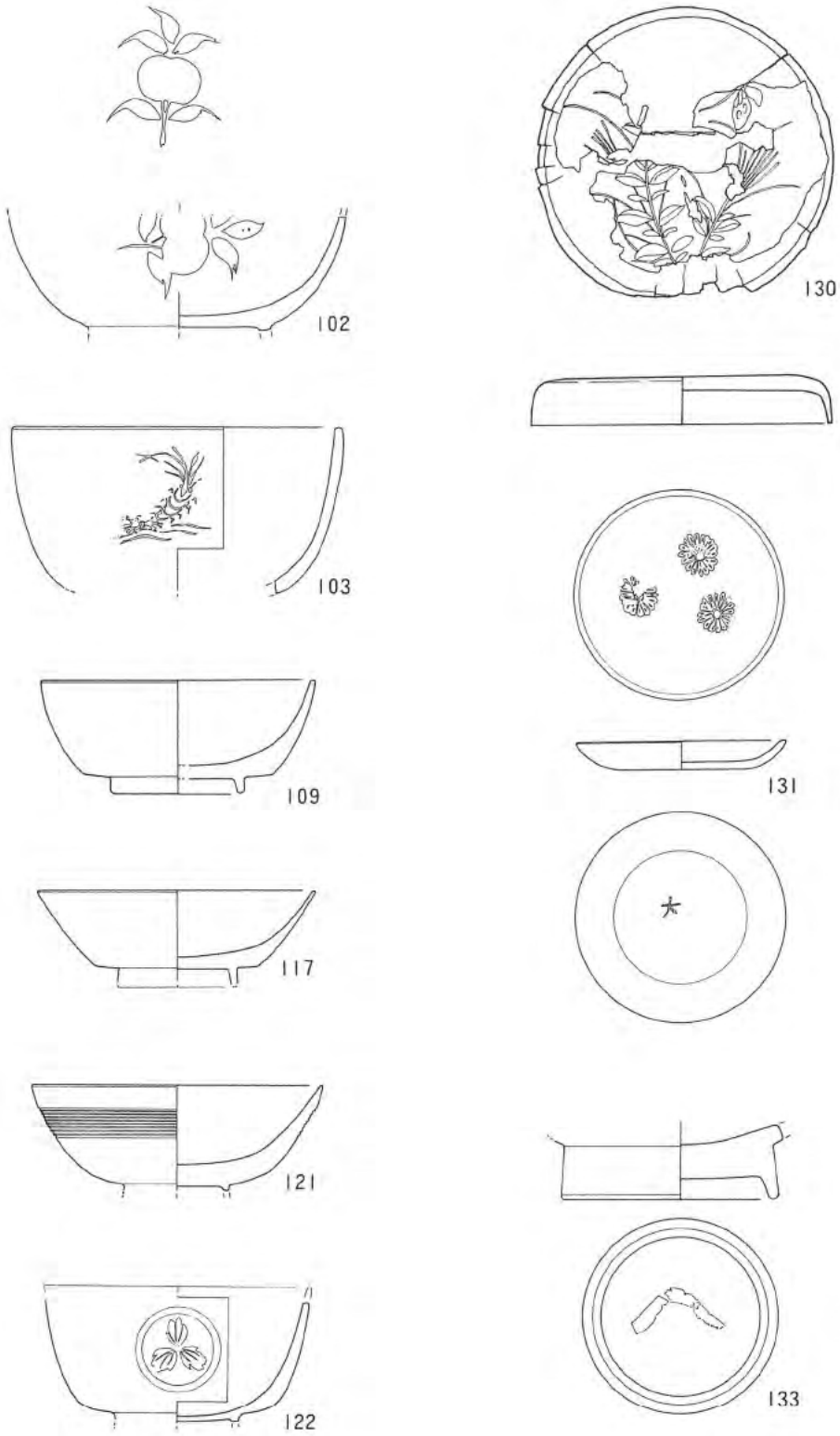
図版－1　県内出土漆製品実測図



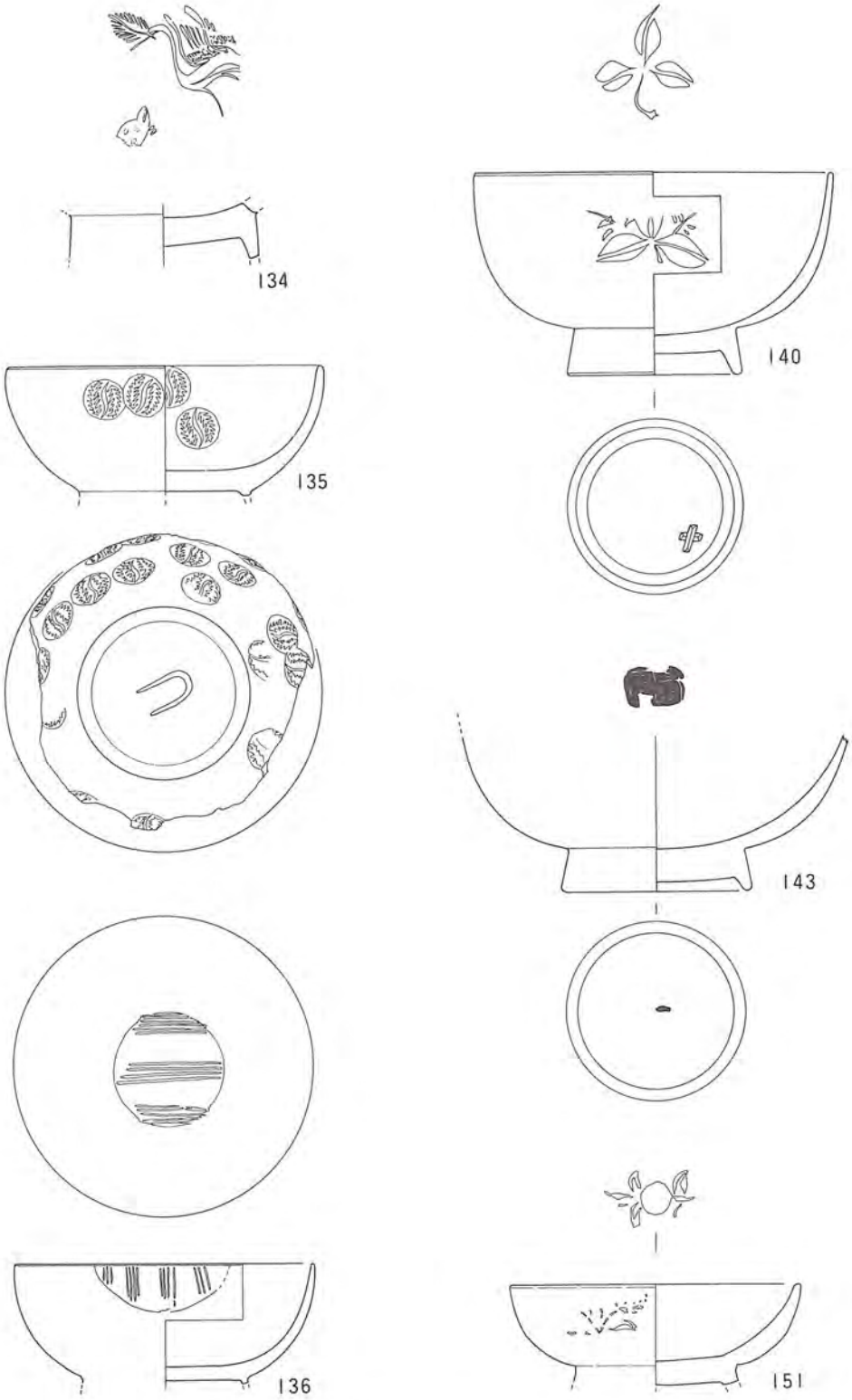
図版－2　県内出土漆製品実測図



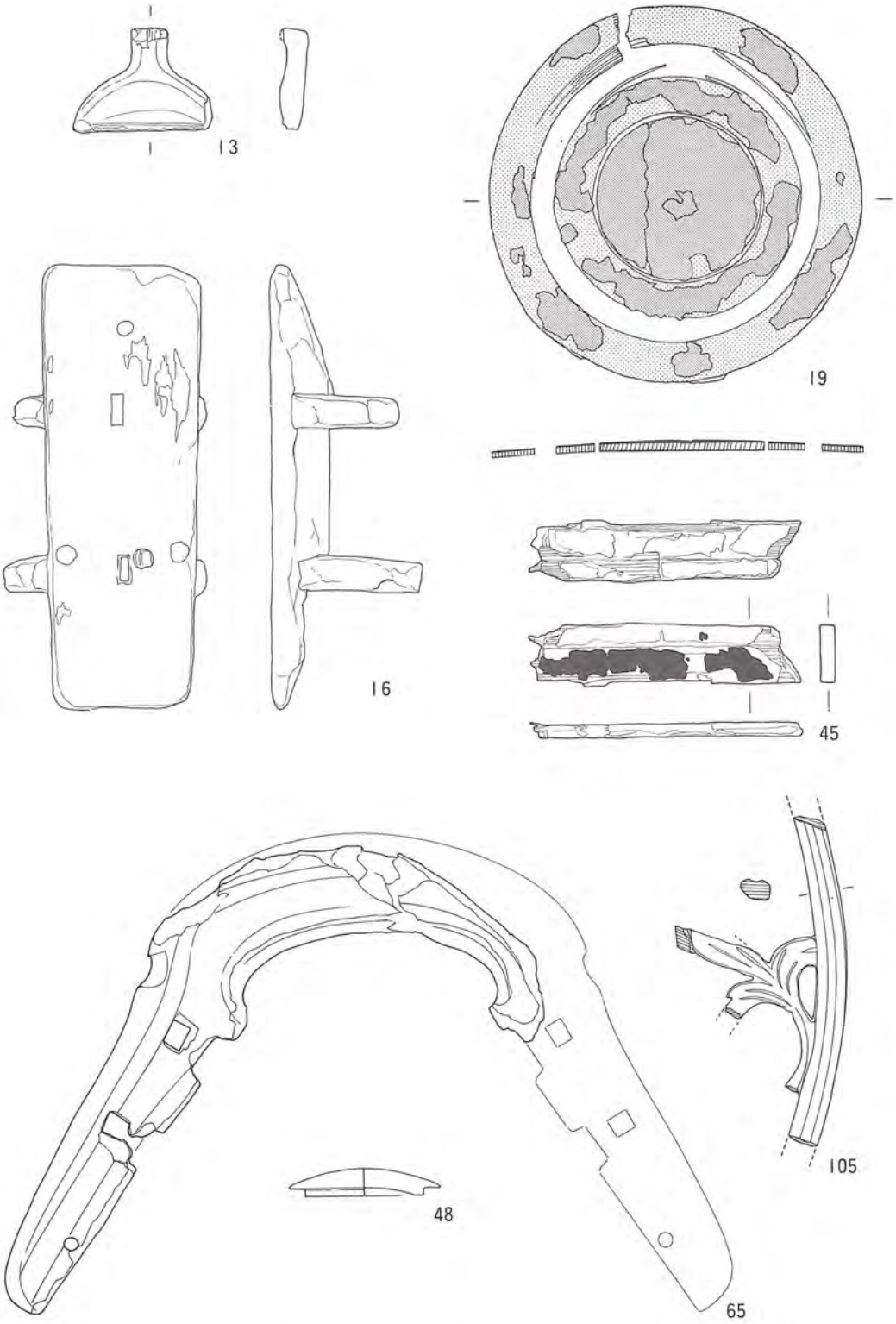
図版－3　県内出土漆製品実測図



図版－4　県内出土漆製品実測図

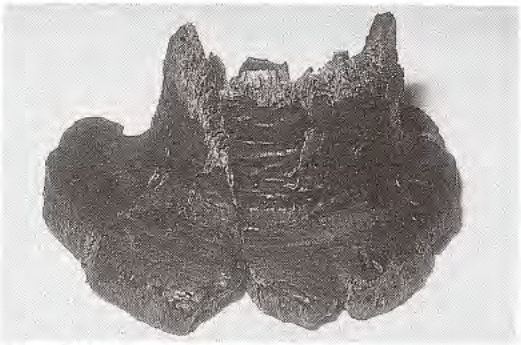


図版－5　県内出土漆製品実測図



図版－6　県内出土漆製品実測図

9　黒漆塗り椀　野畑遺跡

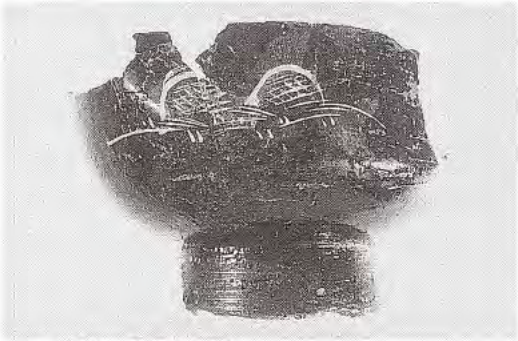


11　黒漆塗り高杯断片　錦織遺跡

16　黒漆塗り下駄　特別史跡彦根城跡

19　巻胎漆器断片　松原内湖遺跡

23　漆椀　妙楽寺遺跡



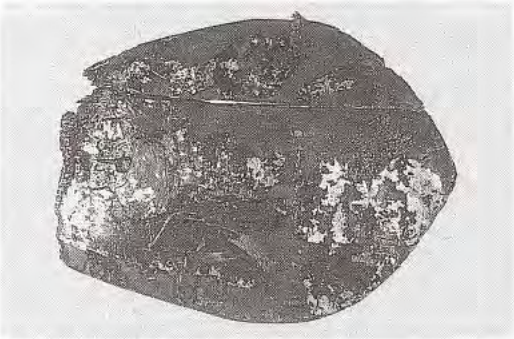
25　漆椀　妙楽寺遺跡

26　漆椀　妙楽寺遺跡

54　扇文漆椀　新庄馬場遺跡

65　黒漆塗り鞍　志那湖底遺跡

66　漆椀　志那中遺跡



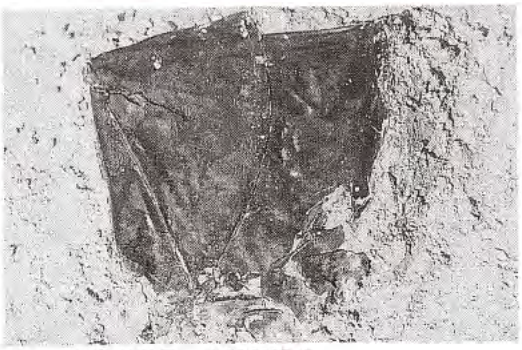
71　蓮弁　川田遺跡

75　漆絵皿　横江遺跡

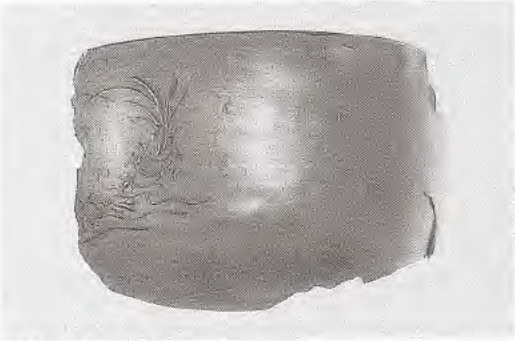
86　花押漆椀　十七遺跡

87　大膳銘漆椀　十七遺跡

93　漆皿　慈恩寺遺跡



101　用途不用品　小御門遺跡



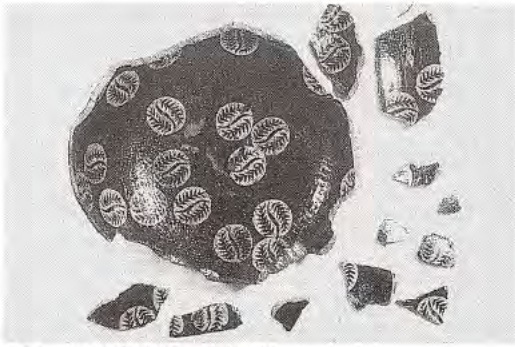
103　漆椀　竜田遺跡

105　漆箔透彫り光背　今安楽寺遺跡

122　漆椀　尾上遺跡

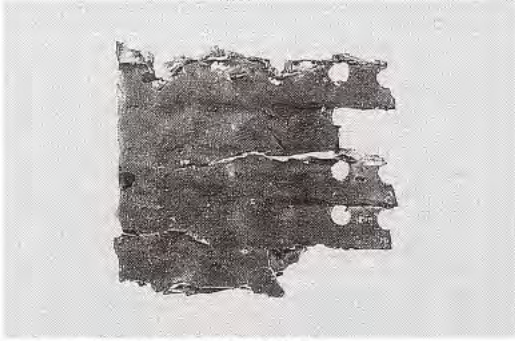
130　花蝶文漆蓋　鴨遺跡

134　鶴亀文漆椀　鴨遺跡



135　押型文漆椀　鴨遺跡

136　漆椀　鴨遺跡



139　漆塗り小札　新庄城遺跡

140　漆椀　針江川北(II)遺跡

141　漆椀　針江川北(II)遺跡

151　漆椀　吉武城遺跡

155　押型文漆椀断片　吉武城遺跡

顕微鏡写真　(資料14拡大)

顕微鏡写真　(資料10拡大)

顕微鏡写真　(資料130拡大)

顕微鏡写真　(資料123拡大)

編集後記

今年度は雨が多く冷夏であり、どの現場もいたずらに排水作業を繰り返し時間に追われて苦悩の日々を過されたことと思います。本紀要も、第7号を迎え、本号には予想を越える14編の論考を掲載することが出来ました。調査に追われながらも、日頃の各自の問題意識と研鑽の結果であるといえるでしょう。本号が「近江」や「文化財」への理解の一助となり、読者の方々からの御指導、御鞭撻が賜れれば幸いです。

5701 K
滋賀県文化財保護協会図書
256

平成6年3月

紀　要　第7号

編集・発行　財団法人　滋賀県文化財保護協会
大津市瀬田南大萱町1732-2
Tel(0775)48-9780・9781

印　　刷　宮川印刷株式会社
大津市富士見台3番18号
Tel(0775)33-1241